

駅前賑わい交流施設整備事業について

○視察地 山口県周南市

平成 17 年より山陽本線、山陽新幹線の徳山駅周辺整備構想がスタート。昭和 44 年建築された鉄筋コンクリート地上 4 階地下 1 階の駅ビルが、老朽化とモータリゼーションの発展による校外店舗への客層の移動により、駅ビルテナントの減少などで改めて駅前交流施設と駅前広場の再開発が計画された。

徳山駅周辺デザイン会議が平成 20 年から 22 年にかけて 6 回、24 年から 25 年にかけて 4 回開催され、基本計画・基本設計、26 年に実施設計、28 年に旧駅ビルの解体から始まり 29 年 11 月には新徳山駅ビルが完成した。30 年 2 月 C C C（カルチャー・コンビニエンス・クラブ）の指定管理者の形態でオープン、この 2 月で丸 2 年を迎える。

基本設計を行う間に、市民アンケートを実施しており、無作為抽出で 1500 名の市民アンケートの中で、Q 市民が行きたいと思う場所のイメージ、でトップだったのが『落ち着いて、居心地のよい』Q ほしい施設でトップは『カフェ・書店』となったことも紹介された。鉄骨 4 階建て、延べ床面積 5200 m²、そのうち徳山駅前図書館が 2370 m²、さらにスターバックスと蔦屋書店がこのうち 900 m²、余りとなっている。

オープンしてから間もなく 2 年を迎える中で、総来場者数は 400 万人を超える見込みとなっており、駅前の賑わいを取り戻す施設としての役割は果たしている、との説明であった。一階にコーヒーショップがあり、ブックショップは 1・2 階に併設されている。コーヒーショップの飲み物は館内に自由に持ち込むことができる。また、ブックショップの週刊雑誌などは自由に読むことができ、図書館機能の補完として使われている。

合併前の図書館が 5 館あり、これらは市直営となっている。駅前図書館は C C C による指定管理だが、中央図書館と連携を図っており、システム上の問題はない、とされている。9：30 から 22：00 までの年中無休と、月曜、月末休みの市営図書館とがうまく補完しているとの事である。ちなみに施設の運営を公募する際、佐賀県武雄市の武雄図書館を目指し、スターバックスと蔦屋書店は入店を条件とした。

5 5 億の事業費は 50% が社会資本交付金、45% の起債と 5% の一般財源となっている。

当初の集客目標は 1 2 0 万人/年であったが、実際は 2 0 0 万人を超えている。

様々なイベントを企画し、施設もそれに対応してフレキシブルに活用できるようになっている。今後、南口広場の改修も終了し、駅の集客が進むことを期待されている。

現地への到着が、視察前日の夕刻となり、午後 7 時ころには商店街の明かりが消え、シャッターが下りていた。その中で、この駅ビルだけが前面ガラス張りのデザインであるがため、異常に明るく浮かび上がっていた。地元の商工会からも、誘客が増え、売り上げ増につながっている、と評価されているとの説明をきき、安堵の気持ちになった。

線路に沿って、細長い建物であるがゆえに様々な制約があるが、それをうまく使って計画されているように思えた。視察当日が雨天であったため、デッキの使用に関しては問題があると思えた。

行政施設は併設されていないが、交流施設として様々な貸スペースがあり、利用状況は

41%、今後の課題とされた。

利用者は周南市民が約 50%、市外からの利用が半分と、鉄道駅を使っの立地が十分活かされている。利用者アンケートは、施設、料金とも満足の回答が多い。

今後、本市における駅施設の利用に関しては、他の事例も数多く視察し、様々な検討を加えつつ、市民に愛され、使ってもら交流施設の在り方を検討すべきと感じた。